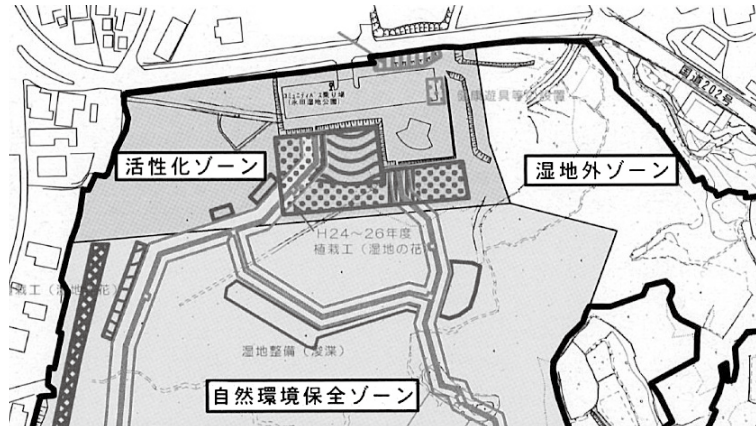


黒崎永田湿地自然公園の魅力創出

問 湿地に適した萱蒲や蓮の花などを植栽し、魅力ある公園とすることで、地域活性化の目玉とできないか。



▲黒崎永田湿地自然公園再整備ゾーン区分図

答 この公園は、平成14年度に遊休、荒廃化していた水田跡地の湿原を自然が体験できる公園として整備したもので、園内ではヨシやガマなどの植物の群生や、絶滅危惧種となっているトンボなどを身近に観察できる。

また、整備から10年を経過した頃から、湿地の機能が低下してきたため、平

成23年度に黒崎永田湿地自然公園再整備計画を策定し、平成24年度から平成28年度にかけて木道の増設やバリアフリー化などの整備を実施し、現在は、年2回の除草等の管理を行っている。

湿地特有の環境を守っていくためには、維持管理にさらなる工夫が必要とされており、再整備計画で設定した活性化ゾーンの活用を基本として、地元の方々と専門家を交えながら、今後の維持管理や植栽の手法を考えていきたい。

定住人口対策としての企業誘致

問 これまでの実績と定住人口対策としての効果、また、誘致企業の業種の選定方法について伺いたい。

答 平成29年度までの直近5年間で15社を誘致し、現時点で1800人以上の雇用実績があり、さらに、今後約1200人の雇用計画がある。平成30年度以降の立地予定分7社、約500人を合わせると、これからの雇用計画は約1700人になると見込んでいる。

情報通信関連産業については今後も発展が見込まれ、情報技術の発達により、立地場所の制約が減少していることから有望な企業誘致の対象であると考えている。

ことし、知名度の高い企業も立地を決定しており、今後、長崎で育つ若いIT人材の雇用の受け皿としての役割

が期待される。



▲企業誘致のために建設されたクレインハーバー長崎ビル(出島町)

日本共産党

伊王島小・中学校の併設のあり方

問 平成31年4月から小学校と中学校の併設により教室数が不足するため、1つの教室を間仕切って授業を行うとのことだが、子どもたちの教育環境を考え、防音効果のあるスライディングウォールによる間仕切りが必要ではないか。

答 小学校は耐震化を行っていないため、耐震性のある中学校に移転・併設し、学校運営を行うこととしている。

普通教室を分割することについては、小学校、中学校との協議の中で、教室内に壁を設置する方法と厚みのあるアコーディオンカーテンを検討した結果、1つの教室を利用して学年集会を行う必要があること、火災等の避難難がしやすいことなどの理由から、アコーディオンカーテンの設置という結論に至っている。

学校の併設以降も、子どもたちが快適に過ごせるよう、状況をしっかり見守り、必要な対応を行っていきたい。



▲伊王島中学校